

## 【南九州地区納稅貯蓄組合連合会会長賞】

### 持続可能な社会の実現に向けて

都城市立姫城中学校

三年 北郷 優斗

「環境税」は、環境に負荷をかける活動や製品に対して課せられる税金のことです。二酸化炭素を多く排出する活動や、ゴミをたくさん出すことなどに税金をかけ、その税収を環境保全のための事業に使うという考え方です。実は、私は、自宅のニワトリと畑で小さな循環をつくりながら、日々の生活の中で環境問題と向き合っています。そこで私は、この環境税について考えてみました。

私が開発した「チキントラクター」は、底のない移動式の鶏小屋で、ニワトリが小屋の中で雑草を食べたり、土を掘り返したりしてくれる道具です。この活動を始めたきっかけの一つに、ゴミ捨て場に山積みになった雑草ゴミがありました。計算してみると、刈りたてで水分を含んだ大量の雑草がゴミに出され、それが運搬されたり、燃やされたりすることで年間十四トンもの二酸化炭素が排出されることがわかりました。私は衝撃を受けました。この「環境への負荷」が、環境税の議論の核心にあるのだと感じています。もし、雑草をゴミとして出すことに税金がかかれば、私がチキントラクターを活用しているように、ゴミにせず再利用する方法を考える人が増えるかもしれないと思うのです。

私は、環境税がただお金を徴収するだけの仕組みであってはならないと思います。税金によって人々の行動を変えるという目的も重要ですが、それ以上に、集まつたお金をどう使うかが最も大切だと考えます。

たとえば、私が住んでいる都城のように高齢化が進み、雑草の処理に困っている地域では、環境税の税収を使って、コミュニティで使えるコンポスト場を設置したり、雑草を飼料として活用する仕組みを支援したりできるかもしれません。また、私が作ったような、個人や地域で使える環境にやさしいツールを開発・普及するための助成金を使うのも良いと考えます。私のニワトリと畑のプロジェクトは、誰かに言われて始めたことではありません。自分の手で試行錯誤を何度も繰り返し、課題にぶつかっては解決策を考えてきました。そうした個人の行動や小さな循環が、環境問題を解決する大きな力になることを私は知っています。だからこそ、環境税のような大きな仕組みは、そうした小さな行動を後押しし、支援するためを使われるべきだと考えています。

環境税は、環境問題という大きな課題に対し、社会全体で向き合うための重要な道具です。しかし、その道具を最も効果的に使うには、私たちが日々の暮らしの中で実践しているような、身近なところから始まるアクションを促すことが不可欠だと思います。大きな仕組みと小さな行動がうまくつながったとき、本当に持続可能な社会が実現するのだと信じています。